

## 【OIE 情報】 ラトビアにおけるアフリカ豚コレラの発生について

ラトビアにおけるアフリカ豚コレラの発生について、OIEへ報告がありましたのでお知らせいたします。

ラトビアは東ヨーロッパに位置し、北はエストニア、南はリトアニア及びベラルーシ、東はロシアと国境を接し、西はバルト海に面しています。

我が国はラトビアとの間で、生きた偶蹄類及び偶蹄類の肉等の家畜衛生条件はありません。

### 【出典】

OIEウェブサイト (2014年6月27日付け)

[http://www.oie.int/wahis\\_2/public/wahid.php/Reviewreport/Review?reportid=15491](http://www.oie.int/wahis_2/public/wahid.php/Reviewreport/Review?reportid=15491)

(OIE情報は更新・差替えが行われる場合がありますので、出典元も併せて御確認下さい。)

### 【概要】

- ・発生数：1 件
- ・発生日：2014年6月27日
- ・OIEへの報告日：2014年6月27日
- ・臨床徴候：あり

### 【発生状況】

- ・発生場所：ラトビア クラスラワ基礎自治体 Kepovas parish

【動物種】	【飼育頭数】	【症例数】	【死亡数】	【淘汰数】	【と畜数】
野生いのしし		2	2	0	0

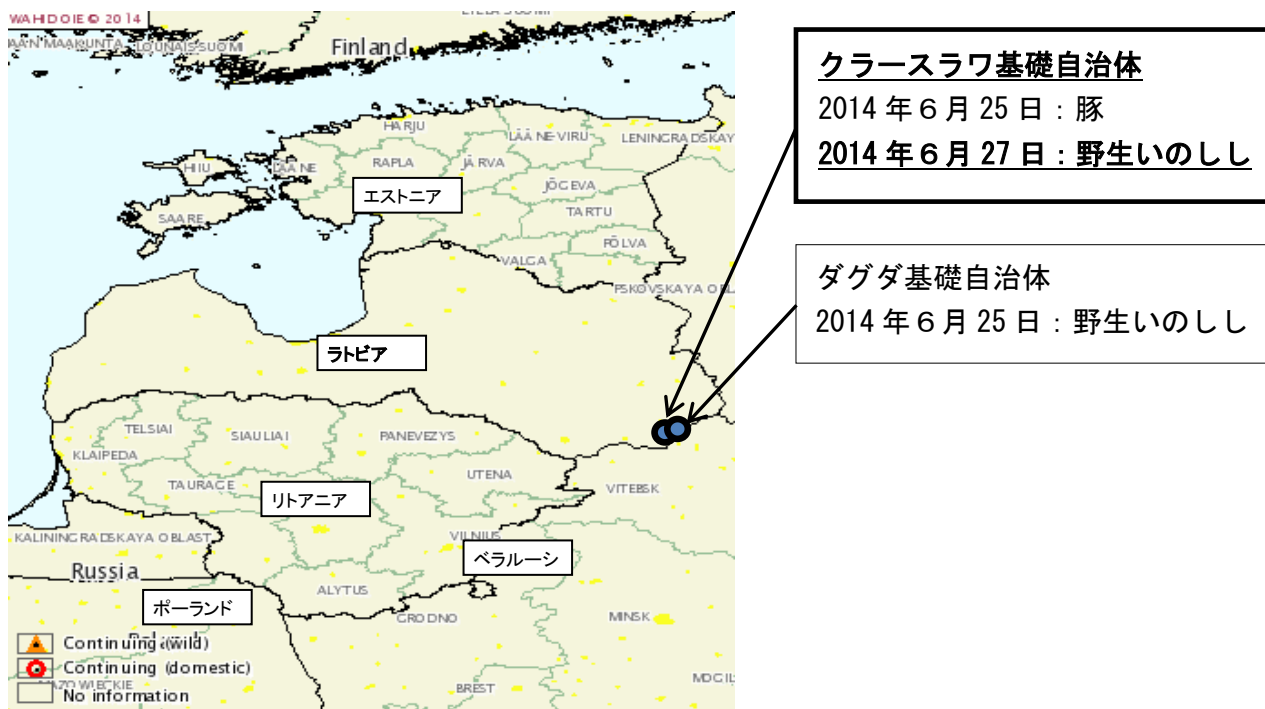
### 【疫学情報】

- ・感染源：不明又は調査中
- ・2014年6月26日、国境警備隊は地元当局に、2頭の野生いのししがベラルーシの国境付近で死んでいたのを発見したと伝えた。
- ・サンプルが採取され、国立リファレンスラボラトリーへ送られた。
- ・6月27日、国立リファレンスラボラトリーにおいて2頭の野生いのししでアフリカ豚コレラウイルスが確認された。
- ・OIEによる注釈：ラトビアでアフリカ豚コレラが確認されたのは歴史的に初めてであるため、初発を理由に報告されているが、本発生は実際にはゾーンで抑えられている。

### 【対応】

- ・感染源となる野生動物のコントロール
- ・スクリーニング
- ・施設等の消毒を実施
- ・患畜を治療対象としない
- ・隔離
- ・ゾーニング
- ・ワクチン接種なし (訳注：有効なワクチンなし)

## 【ラトビアにおけるアフリカ豚コレラの発生状況】



(参考1：アフリカ豚コレラとは)

アフリカ豚コレラウイルス（二本鎖DNAをゲノムに持つアスファウイルス科アスファウイルス属）感染による豚の熱性伝染病。臨床症状および病理所見は豚コレラと類似。甚急性では突然死亡、急性では発熱（40～42℃）、食欲不振、粘血便（ねんけつべん）を呈し、100%死亡する。

感染豚や実験感染豚にはこのウイルスに対する中和抗体が産生されないため、本病に対する有効なワクチンはない。スペインやポルトガルなどでは大規模な殺処分等による防圧で本病を撲滅した。有効な治療法は存在しない。

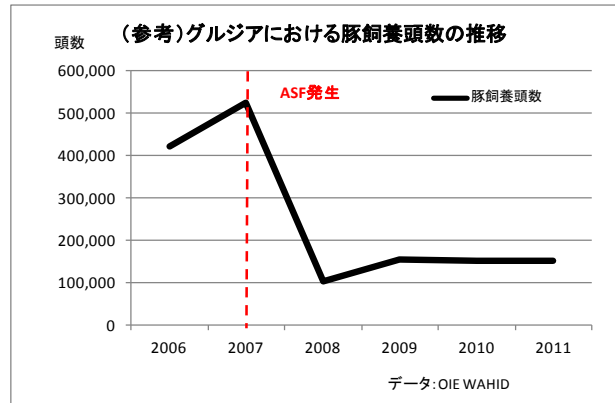
我が国では、法定伝染病に指定。

国際連合食糧農業機関（FAO）などの国際機関が「国境を越えてまん延し、発生国の経済、貿易及び食料の安全保障に関わる重要性を持ち、その防疫には多国間の協力が必要となる疾病」と定義する「越境性動物疾病」の代表例である。

本病は、アフリカ地域で常発的に発生が見られるが、近年、ロシアのコーカサス地方等での続発や中・東欧での発生が報告されている。

(参考2：コーカサス地方・中東欧におけるアフリカ豚コレラの発生)

- ①2006年末頃、グルジアで発生。コーカサス地方に侵入（黒海に面するポチ港を通じて、南アフリカからグルジアに侵入）
- ②グルジアでは2007年に約50万頭の豚が飼養されていたが、2008年には約10万頭に減少。



③2007年8月にアルメニア（豚）、2007年11月にロシア（チェチエン共和国）（野生いのしし）、2008年1月にアゼルバイジャン（豚）で発生。

④2012年7月にウクライナ（豚）、2013年6月にベラルーシ（豚）で発生。

⑤2013年7月、EUはベラルーシでのアフリカ豚コレラの発生に関し声明を発表。

⑥2014年1月にリトアニア（野生いのしし）で発生、ウクライナで再発（豚、野生いのしし）。

⑦2014年2月にポーランド（野生いのしし）で発生。

⑧2014年6月にラトビア（豚、野生いのしし）で発生。

※これまでにロシアでは、アフリカ豚コレラの発生によって60万頭以上の豚が死亡又は淘汰されたとの報告がある。

※コーカサス地方では昨年、口蹄疫（A型）も発生。ワクチン接種等を実施中。